

チューリップ 最後の1万7000本

宇和島・三間

宇和島市三間町則の県道沿いで、地元住民らが育てたチューリップが見頃を迎えている。三間公民館によると、30年以上「チューリップ街道」として親しまれてきたが、中心で担ってきた則自治会が高齢化のため今回で終了すると決断。知らせを聞いた住民らが、見納めとなる花を惜しみながら眺めている。

30年以上住民丹精の「街道」

高齢化で終了決断

街道は「花いっぱい運動」の一環で1989年から始まり、四国霊場42番札所仏木寺へ続く約1・2キロの花壇でチューリップを育てている。三間公民館などによると、則自治会が話し合いの結果、今回で取り組みを終えたと決めたという連絡があった。

4月3日には、仏木寺で三間分校の生徒が地元特産の「三間米」を使ったライスバーガーの試食会を開く予定。

日、田んぼを貫く「街道」では、赤と黄色の花が色鮮やかな列をつくり、訪れた人が散策したり写真に収めたりして過ごしていた。

同市三間町戸雁の教員松田光主さん(31)は娘の伊織ちゃん(1)と「きれいなね」と顔を見合わせながらゆっくり歩き「毎年見ていたので、最後と聞いてさみしい」と残念がっていた。

(阪和舞)



仏木寺に続く県道沿いを彩るチューリップ